

流動：通過の路程にて

映像学科

李 容旭

Flow: in the Distance of Passing

Department of Imaging Art

Lee Yong Uk

昨日のわたしは今日のわたしまた明日のわたし
昨日のわたしは今日のわたしではない
また明日のわたしでもない
毎日変わるわたし
いったいわたしは
どこにいる？

20世紀の大画家と言われているフランシス・ベーコン。時代の暴力性を真正面から取り上げた恐ろしくグロテスクな形態や、色彩は今の時代においても色あせることはない。絵画の世界で彼の作品は絵画を超えた絵画として名高いが、切り取り（空間の問題）と配列（時間の問題）を考える映像においても学ぶところは多い。確定しないフォルム、空間の広がりや描かれたフレームの枠組みを遙かにこえ、しまいには時空をこえ表現の彼方へ旅立っていく。ベーコンによって純粋な絵画体験が復権され、絵画の宇宙へ、純粋なイメージ体験と我々の経験が結びつく。

フランスの哲学者ジル・ドゥルーズは彼の著書のなかで「ベーコンの絵画が構成するのは、人と動物との間の、識別不可能な地帯、確定不可能な地帯である」といいベーコンの絵画の特性をイメージの不確定性として論じているのだが、イメージの不確定性は想像の大洋へ我らを誘う。裏付けとなる物語りも、明白な動機もない感情の原初的な状況として定義される「純粋な視覚」はベーコンの絵画を通して感じることができる。この見る側の自由な発想に作品の解釈が委ねられているベーコンの作品の世界は映像においても憧れである。彼は自らの作品について「何もいうこと、説明することはない」という。なにも説明することがないという説明。

今回の作品は横浜を中心として活動している現代アートグループ「ART シャワー横浜」からの招聘をきっかけに制作された。ベーコンから3面マルチの切り取りと確定しない人体の境界を引用しつつ、男、女、ループする一日、絶対的停止の時空間（真ん中のモニター）の間の関係性をも意識している。生身の人間が舞台上に登場し、行為し、去っていく。この単純な動作の永遠なるループ。私たちの日常から喚起されたものである。繰り返す日常のなかでわたしと思うわたしはいったいどこにいるだろうか。わたしをわたしと信じているわたしはわたしによって確定できる？

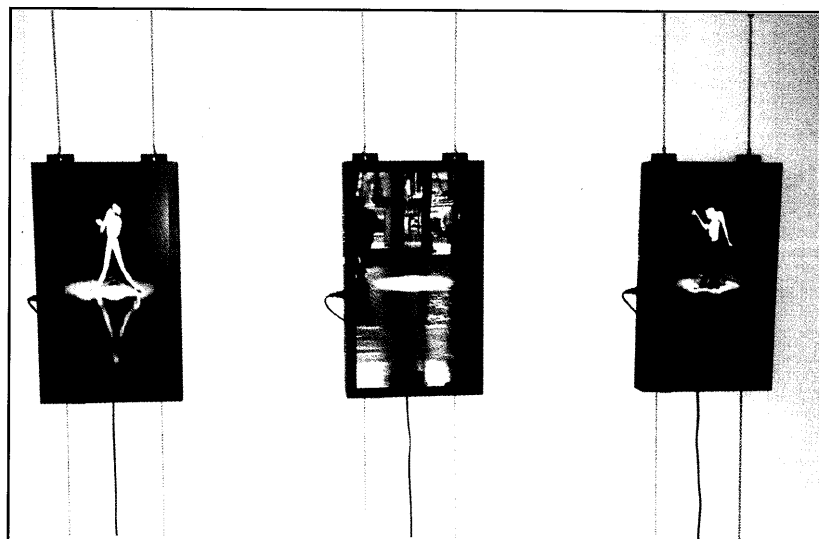
システムとしてはHD（注）カメラで撮影された映像をHDサイズで編集、Mpeg 級に圧縮、Compact Flash Memory Cardへ転送、モニタに挿入し上映する形式をとった。プレーヤーが要らなくなった分、展示の様子はすっきりとしたものになった。それぞれ映像の長さは7分。ループ再生している。

参考文献

ジル・ドゥルーズ「感覚の論理＊画家フランシス・ベーコン論」法政大学出版部 2007年3刷
イェルク・ツィンマーマン「フランシス・ベーコン」三元社 2006年
森美術館 ビル・ヴィオラ「はつゆめ」淡交社 2006年

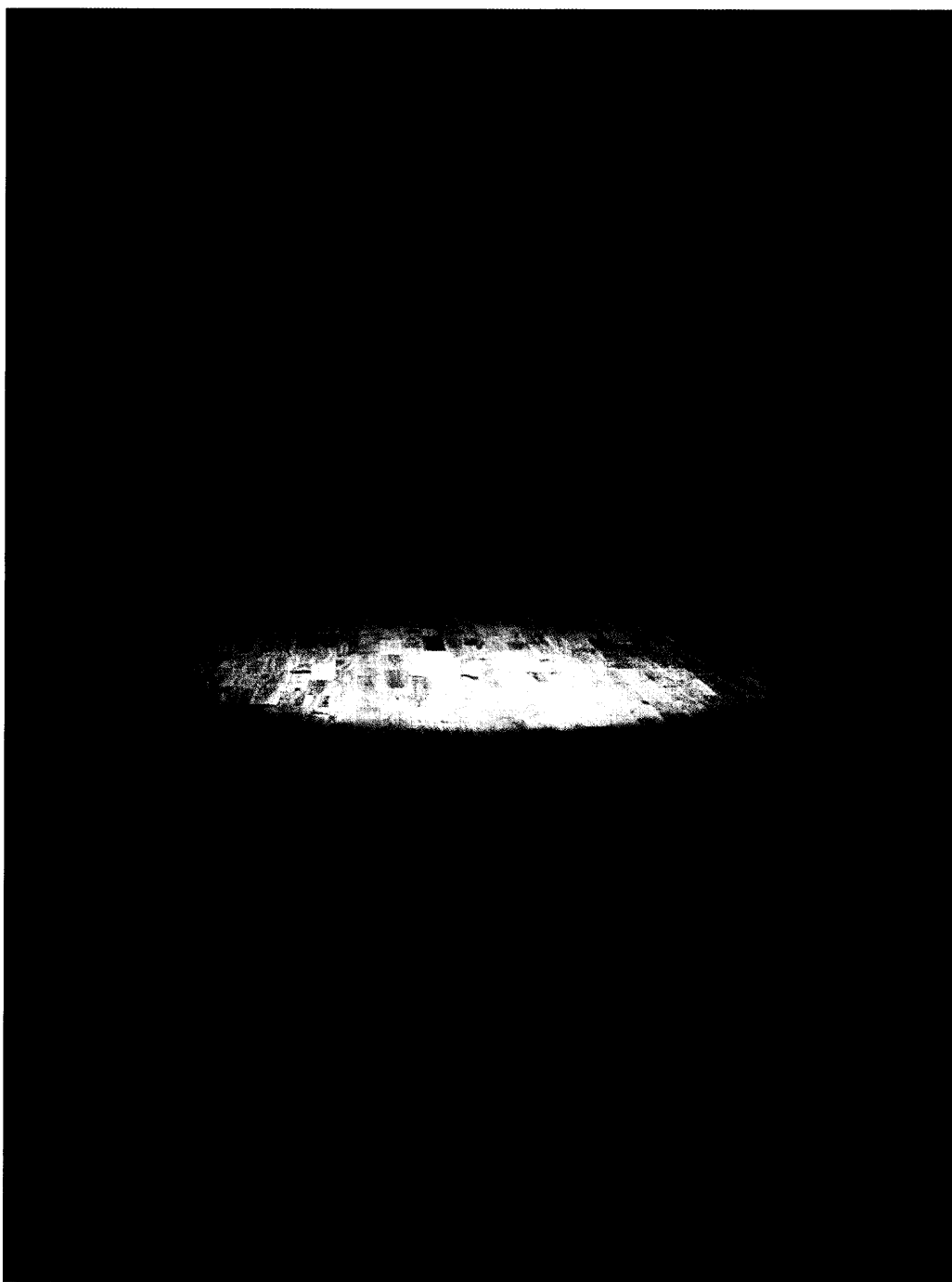
注

HD：High Definition 高精細の意味。普通のテレビが720＊486の画像サイズであるのに対して高精細テレビは1920＊1080のサイズである。

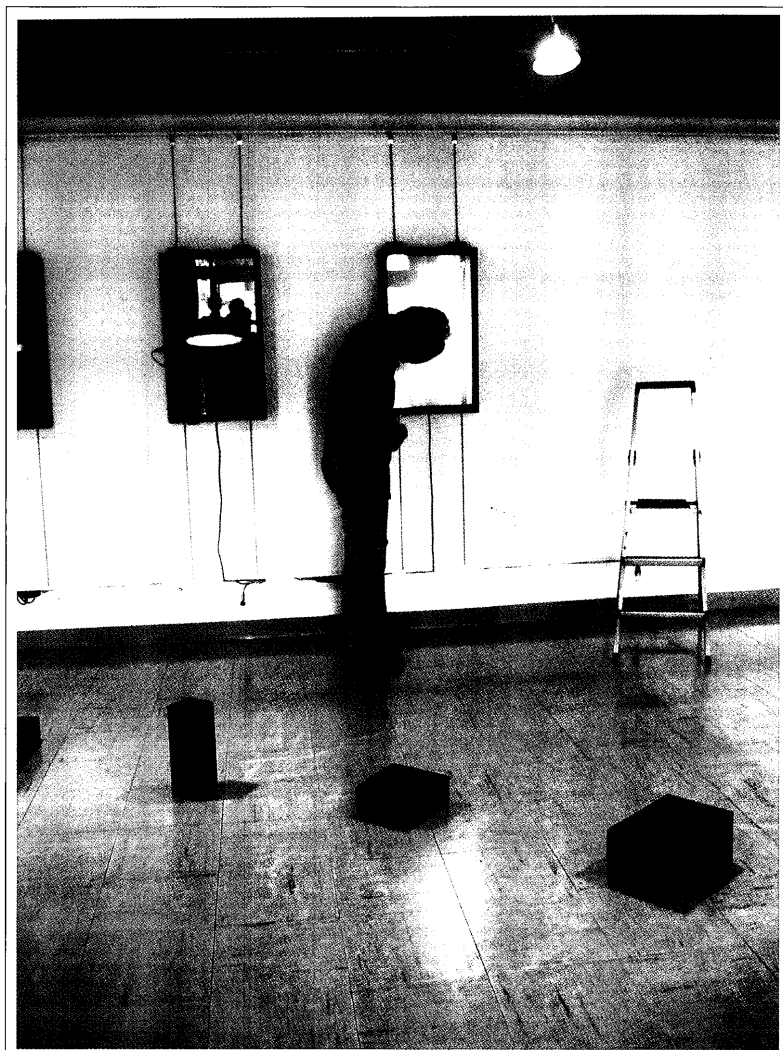


映像インスタレーション、5M＊5M CF メモリー
カラー HD-NTSC、HD 液晶モニター 3面、壁に設置









Performance

若尾 伊佐子
森下 こうえん

Camera

大城 俊郎

Assistant

仙田 麻子
山下 健治

2007 李 容旭 Lee Yong uk